

**NEW**  
ILLUSTRATED ENCYCLOPEDIA  
OF  
THE FAUNA OF JAPAN

新日本動物圖鑑

〔下〕

北 隆 館  
HOKURYUKAN

NEW  
ILLUSTRATED ENCYCLOPEDIA  
OF  
THE FAUNA OF JAPAN  
(III)

HOKURYUKAN CO., LTD.

No.21, 3-chome, Kanda-nishikicho, Chiyoda-ku  
Tokyo, Japan 〒101

新日本動物圖鑑 (下)

昭和40年1月25日 初版印刷  
昭和57年6月30日 8版発行

定価15,000円

著者 岡田 要  
代表 内田清之助  
内田 亨  
発行者 福田元次郎  
発行所 株式会社北隆館

●101 東京都千代田区神田錦町3-21  
電話 03(291)3855 振替東京4-750

印刷所 中央精版印刷株式会社

©1982 HOKURYUKAN Printed in Japan

## 序

この図鑑の初版の序に引用されている「名を知らねば物が覚えられぬ」というのは、生物分類学の泰斗リンネの言葉である。まことにその通りで、わが国にも大正の早い頃から「牧野植物圖鑑」というものがあり、これが素人、玄人の区別なく植物の鑑定にあたってたいへん重宝がられた。それにかんがみ北隆館で、動物方面でも昭和2年に「日本動物圖鑑」を発行した。その後本書はほとんど毎年のように版を重ねたが、その間にわが国の動物分類学は一段と進歩したので、昭和15年、執筆者の増員を計って増訂改版が企画された。しかしこの計画は戦争という邪魔がはいって一時中絶したが、昭和22年の秋にはいりようやく「改訂増補日本動物圖鑑」となって現われた。

私はこの頃から前社長福田良太郎氏を知るようになり、しばしば該圖鑑を戦後の日本にふさわしいものに書き改めるよう助言した。しかしその頃の出版業界は世を挙げて原色に眩惑されていたので、北隆館もつぎつぎと大小いろいろの原色圖鑑を発行した。

その結果がはたして成功であったか否かは別として、私はそのためこの「新日本動物圖鑑」の完成が遅延することを大いにおそれ、繰り返しそのことを前社長に警告した。氏もまたこれを了とされたが、い然原色圖鑑出版を優先とする社の方針は変わらなかった。

そのうち良太郎氏は昭和31年3月志半ばにして世を去った。それから9年、「新日本動物圖鑑」は、上・中・下の三巻となって本年1月ようやく上巻が発刊され、つづいてここに下巻が上梓されるに至った。これによってはじめて色香に迷わぬ立派な圖鑑のできたことをこよなく嬉しく感ずる次第である。

昭和40年7月

国立科学博物館長

岡 田 要

## 凡 例

1. 本書に収録せる動物は本邦（北海道・本州・四国・九州・沖縄諸島）産に限った。
2. 動物種類は7,500余種に及ぶため、これを次の如く3分冊とし、次の順序に排列した。

上巻：原生動物、中生動物、海綿動物、腔腸動物、有櫛動物、扁形動物、紐形動物、袋形動物、曲形動物、  
星口動物、環形動物、触手動物  
中巻：軟体動物、節足動物〈昆虫綱を除く〉  
下巻：毛類動物、有鬚動物、棘皮動物、原索動物、脊椎動物
3. 各動物門の冒頭には総説を、綱には概説を付して、各群の体制模式図による術語、形態、発生、生態、人生との関係等の理解を容易ならしめた。
4. 各動物の和名および学名は、各執筆者がもっとも妥当とせるものを選び、異名・別称の類は煩雑をさけるために原則として列記しないこととした。

また、和名はすべて平かなアンチック体をもって表わし、学名は属・種・亜種名はイタリック体、命名者名はスモール・キャップ体を用いた。

しかし、記載中に出てくる和名は、俗名、総称名も含め全部片かな、学名はイタリック体、人名および死んだ属名はローマン体を用いた。

また和名の未だつかぬ種については、学名そのものを日本語読みとし、片かなアンチック体(記載中では明朝体)で表わした。
5. 本書の上部柱には動物門名、綱名、要すれば亜綱名を、挿図横の縦柱には目名、亜目名、科名を表示して属種名との関連を明らかにした。
6. 記載は簡潔を旨とし、執筆者はそれぞれの記載末尾に明示した。旧図鑑（日本動物図鑑）の旧稿を新執筆者が加筆もしくは一部削除した場合等は旧執筆者名・新執筆者名を列記した。
7. 和名索引・学名索引については、それぞれの索引頁冒頭の凡例による。

編 集 部

# 新日本動物圖鑑〔下卷〕目次

序.....	岡田 要	
<b>毛顎動物 CHAETOGNATHA</b> .....	1	
<b>矢虫綱 SAGITTOIDEA</b> .....	2	
無膜目 Aphragmophora .....	2	
やむし科.....	2	
へらがたやむし科.....	5	
ほそやむし科.....	6	
膜筋目 Phragmophora.....	6	
くろーんやむし科.....	6	
いそやむし科.....	6	
<b>有鬚動物 POGONOPHORA</b> .....	7	
無蔽腎目 Athecanephria.....	7	
ひとつひげむし科.....	7	
有蔽腎目 Thecanephria .....	7	
くだひげむし科.....	7	
<b>棘皮動物 ECHINODERMATA</b> .....	8	
<b>海百合綱 CRINOIDEA</b> .....	10	
海百合目 Isocrinida.....	11	
こかくりみゆり科.....	11	
海羊歯目 Comatulida.....	12	
狭中腔亜目 Oligophreata.....	12	
くしうみした科.....	12	
かせうみした科.....	13	
まだらうみした科.....	13	
はねうみした科.....	14	
とげうみした科.....	14	
いぼあしうみした科.....	14	
おおうみした科.....	15	
ゆうびうみした科.....	15	
あしながうみした科.....	15	
いろうみした科.....	15	
かつらうみした科.....	17	
ひめうみした科.....	18	
広中腔亜目 Macrophreata .....	18	
いつうでうみした科.....	19	
細海百合目 Millericrinida .....	20	
ちひろりみゆり科.....	20	
かわりみゆり科.....	20	
<b>蛇尾綱 OPHIUROIDEA</b> .....	21	
革蛇目 Phrynophiurida .....	22	
きぬはだくもひとで科.....	22	
きぬがさもづる科.....	23	
いうれいもづる科.....	23	
たこひとで科.....	24	
てづるもづる科.....	25	
喉蛇目 Laemophiurida.....	26	
とげながくもひとで科.....	26	
はなくもひとで科.....	28	
はなびらくもひとで科.....	28	
顎蛇目 Gnathophiurida .....	29	
すなくもひとで科.....	29	
とげくもひとで科.....	36	
あみめくもひとで科.....	37	
ふさくもひとで科.....	38	
りゅうこつくもひとで科.....	39	
唇蛇目 Chilophiurida .....	39	
くもひとで科.....	39	
ごようくもひとで科.....	43	
あわはだくもひとで科.....	43	
<b>海星綱 ASTEROIDEA</b> .....	45	
顕帯目 Phanerozonida .....	47	
ボルケラナステル科.....	47	
ゴニオベクテン科.....	47	
アスツロベクテン科.....	47	
ルイディア科.....	50	
ベクトペンテン科.....	51	
ベントベクテン科.....	52	
アルカステル科.....	52	
ゴニアステル科.....	52	
オレアステル科.....	54	
オフイディアステル科.....	55	
アステロベ科.....	57	
有棘目 Spinulosa .....	57	
アステリナ科.....	57	
エキナステル科.....	58	
アカンタステル科.....	58	

ミツロディア科	59	くらげなまこ科	88
ソラステル科	59	えびしなまこ科	88
叉棘目 Phorcipulata	60	楯手目 Aspidochirota	88
ブリシంగా科	60	くろなまこ科	88
ゾロアステル科	61	まなまこ科	90
アステリアス科	61	樹手目 Dendrochirota	92
海胆綱 ECHINOIDEA	64	きんこ科	92
桿棘目 Cidaroida	66	じいがせきんこ科	94
ふとざおうに科	66	ぐみもどき科	94
鱗殻目 Lepidocentroida	68	隠足目 Molpadonia	96
やわらうに科	68	いもなまこ科	96
稜歯目 Stirodonta	69	無足目 Apoda	97
フィモゾマ科	69	いかりなまこ科	97
くろうに科	69	くるまなまこ科	98
アルパキア科	70	きくもんなまこ科	99
管歯目 Aulodonta	70		
おとめうに科	70	原索動物 PROTOCHORDATA	100
がながせ科	70	縦索綱 ADELOCHORDA	100
拱歯目 Camarodonta	71	腸鰓目 Enteropneusta	100
さんしょううに科	71	ぎぼしむし科	100
らっぼうに科	73	はねなしぎぼしむし科	101
おおぼふんうに科	74	ハリマニヤ科	101
ながうにもどき科	75	翼鰓目 Pterobranchia	101
ながうに科	75	えのころふさかつぎ科	101
卵形目 Holoctypoida	76	尾索綱 UROCHORDA	102
たまごうに科	76	尾虫亜綱 APPENDICULARIA	102
饅頭目 Cassiduloidea	75	尾虫目 Appendicularia	103
まんじゅううに科	76	おたまぼや科	103
蛸枕目 Clypeastroida	77	さいざちぼや科	105
たこのまくら科	77	海鞘亜綱 ASCIDIACEA	108
まめうに科	77	腸性目 Enterogona	110
かしばん科	78	無管亜目 Aplousobranchiata	110
スクテラ科	79	ポリクリニ科	110
心形目 Spatangoida	79	ジテムニ科	111
とっくりぶんぶく科	79	ポリキトリ科	114
むかしぶんぶく科	80	網鰓亜目 Phlebobranchiata	116
もちぶんぶく科	80	キオナ科	116
ひらたぶんぶく科	80	アスキジア科	116
ぶんぶくちやがま科	81	アグネシア科	117
おおぶんぶく科	81	コレラ科	118
海鞘綱 HOLOTHUROIDEA	82	奇体類	119
板足目 Elaspoda	84	壁性目 Pleurogona	119
みつまたなまこ科	84	褶鰓亜目 Stolidobranchiata	119
おになまこ科	85	ボトリルス科	119
くまなまこ科	87		

スチエラ科.....	120	よろいざめ科.....	158
剛鯢亜目.....	124	きくざめ科.....	159
ピウラ科.....	124	のこぎりざめ亜目 Pristiophorina .....	159
モルグラ科.....	128	のこぎりざめ科.....	159
火体亜綱 PYROSOMATA.....	130	かすざめ亜目 Squatinina .....	159
火体目 Pyrosomata.....	130	かすざめ科.....	159
ひかりぼや科.....	130	がんぎえい目 Rajidae.....	160
サルバ亜綱 SALPIDA.....	131	のこぎりえい亜目 Pristina.....	160
環筋目 Cyclomyaria.....	132	のこぎりえい科.....	160
うみたる科.....	132	しびれえい亜目 Torpedinina.....	160
断筋目 Desmomyaria .....	132	しびれえい科.....	160
サルバ科.....	132	がんぎえい亜目 Rajida .....	160
頭索綱 CEPHALOCHORDATA .....	135	さかたざめ科.....	160
<b>脊椎動物 VERTEBRATA .....</b>	<b>136</b>	うちわざめ科.....	161
円口綱 CYCLOSTOMI .....	138	がんぎえい科.....	162
やつめうなぎ目 Petromyzonida .....	140	あかえい科.....	166
やつめうなぎ科.....	140	とびえい科.....	167
めくらうなぎ目 Myxinida.....	141	いとまきえい科.....	168
ぬたうなぎ科.....	141	ぎんざめ目 Chimaerida.....	168
めくらうなぎ科.....	141	ぎんざめ科.....	168
軟骨魚綱 CHONDRICHTHYES .....	142	てんぐぎんざめ目 Callorhinchida.....	169
板鰓亜綱 ELASMOBRANCHII.....	145	てんぐぎんざめ科.....	169
さめ目 Selachii.....	145	<b>硬骨魚綱 OSTEICHTHYES .....</b>	<b>170</b>
らぶか亜目 Chlamydoselachina .....	145	<b>真口亜綱 TELEOSTOMI .....</b>	<b>175</b>
らぶか科.....	145	ちょうざめ目 Acipenserida.....	175
かぐらざめ亜目 Hexanchina .....	145	ちょうざめ科.....	175
かぐらざめ科.....	145	にしん目 Clupeida .....	175
ねこざめ亜目 Heterodontina .....	146	からいわし亜目 Elopina .....	175
ねこざめ科.....	146	いせごい科.....	175
さめ亜目.....	147	からいわし科.....	175
とらざめ科.....	147	そといわし亜目 Albulina .....	175
てんじくざめ科.....	149	ぎす科.....	175
じんべいざめ科.....	150	そといわし科.....	176
しゅもくざめ科.....	150	にしん亜目 Clupeina .....	176
ねずみざめ科.....	150	このしろ科.....	176
うばざめ科.....	151	うるめいわし科.....	176
おながざめ科.....	151	にしん科.....	177
おしざめ科.....	152	かたくちいわし科.....	178
みつくりざめ科.....	152	せきとりいわし科.....	178
どちざめ科.....	152	ねずみぎす亜目 Gonorhynchina .....	179
めじろざめ科.....	153	ねずみぎす科.....	179
つのざめ亜目 Squalina .....	155	さけ亜目 Salmonina .....	179
つのざめ科.....	155	さけ科.....	179
		あゆ科.....	181
		きゅうりうお科.....	181

しらうお科……………	182	そこぎす目 Notacanthida ……	224
にぎす亜目 Opisthoproctina ……	183	そこぎす亜目 Notacanthina ……	224
にぎす科……………	183	そこぎす科……………	224
ぎんざけいわし科……………	183	たうなぎ目 Symbranchia ……	224
わにとかけぎす亜目 Bathylagidae ……	183	たうなぎ科……………	224
よこえそ科……………	183	めだか目 Cyprino dontida ……	224
むねえそ科……………	185	めだか亜目 Cyprinodontina ……	224
ほうらいえそ科……………	185	めだか科……………	224
とかげはだか科……………	185	タツミンノウ科……………	225
みつまたやりうお科……………	186	だつ目 Belonida ……	225
ほていえそ科……………	186	だつ亜目 Belonina ……	225
はだかいわし目 Myctophida ……	186	だつ科……………	225
はだかいわし亜目 Myctophina ……	186	さんま科……………	225
ひめ科……………	186	とびうお亜目 Exocoetina ……	225
あおめえそ科……………	186	さより科……………	225
えそ科……………	186	さよりとびうお科……………	226
いとひきいわし科……………	189	とびうお科……………	226
はだかいわし科……………	189	とげうお目 Gasterosteida ……	232
みずうお亜目 Alepisaurina ……	193	とげうお科……………	232
はだかえそ科……………	193	くだやがら科……………	233
みずうおだまし科……………	193	ようじうお目 Syngnathida ……	233
みずうお科……………	193	へらやがら亜目 Aulostomina ……	233
しゃちふり目 Ateleopida ……	194	へらやがら科……………	233
しゃちふり科……………	194	やがら科……………	233
こい目 Cyprinida ……	194	さぎふえ科……………	234
こい亜目 Cyprinina ……	194	へこあゆ科……………	234
こい科……………	194	ようじうお亜目 Syngnathina ……	235
どじょう科……………	205	かみそりうお科……………	235
なまず亜目 Silurina ……	208	ようじうお科……………	235
なまず科……………	208	きんめだい目 Berycida ……	238
ごんずい科……………	208	きんめだい科……………	238
ぎぎ科……………	209	まつかさうお科……………	239
はまぎぎ科……………	210	ひかりきんめだい科……………	239
うなぎ目 Anguillida ……	210	ぎんめだい科……………	239
うなぎ亜目 Anguillina ……	210	かのこうお科……………	240
うなぎ科……………	210	いっとうだい科……………	240
ほらあなご科……………	210	ぐそくだい科……………	240
あなご科……………	211	なかむらぎんめ科……………	241
はも科……………	214	ひうちだい科……………	241
くずあなご科……………	215	かぶとうお科……………	242
うみへび科……………	216	あかまんぼう目 Lamprida ……	242
めくらあなご科……………	219	あかまんぼう亜目 Lamprina ……	242
うつぼ科……………	219	あかまんぼう科……………	242
しぎうなぎ亜目 Nemichtkyina ……	223	くさあじ亜目 Veliferina ……	242
しぎうなぎ科……………	223	くさあじ科……………	242



ふりそでうお亜目 Trachypterina.....	242	あおばだい科.....	276
ふりそでうお科.....	242	あかめ科.....	276
りゅうぐうのつかい科.....	243	すずき科.....	276
あかなまだ科.....	243	たなばたうお科.....	296
まとだい目 Zeida.....	244	とげたなばたうお科.....	296
まとだい科.....	244	にべ科.....	296
ひしまとだい科.....	245	きす科.....	298
すずき目 Percida.....	245	めじな科.....	298
ほら亜目 Mugilina.....	245	いすずみ科.....	299
とうごろういわし科.....	245	たかさごいしもち科.....	299
ほら科.....	246	くろさぎ科.....	299
かます科.....	248	ふえだい科.....	300
さば亜目 Scombrina.....	249	ちょうせんばかま科.....	306
さば科.....	249	いしふえだい科.....	306
まかじき科.....	253	たかさご科.....	306
めかじき科.....	253	いさき科.....	308
くろたちかます科.....	253	しまいさき科.....	311
たちうお科.....	256	いとよりだい科.....	312
しいら科.....	256	たい科.....	315
しまがつお科.....	256	ふえふきだい科.....	317
あじ亜目 Carangina.....	258	ごんべい科.....	321
あじ科.....	258	たかのはだい科.....	321
くろあじもどき科.....	264	わにぎす亜目 Trachinina.....	322
ひいらぎ科.....	264	とらぎす科.....	322
ぎんかがみ科.....	265	ほかけとらぎす科.....	325
すぎ科.....	265	べらぎんぼ科.....	327
いぼだい亜目 Stromateina.....	265	そこあまだい科.....	327
いぼだい科.....	266	あごあまだい科.....	327
えぼしだい科.....	266	わにぎす科.....	328
まながつお科.....	267	みしまおこぜ亜目 Uranoscopina.....	328
すずき亜目 Percina.....	267	みしまおこぜ科.....	328
たかべ科.....	267	ねずっぽ亜目 Callionymina.....	330
はたんぼ科.....	268	いなかぬめり科.....	330
はたはた科.....	268	ねずっぽ科.....	330
いしだい科.....	268	いかなご亜目 Ammodytina.....	334
ひめじ科.....	269	いかなご科.....	334
あかたち科.....	270	しわいかなご科.....	335
あまだい科.....	271	たいわんいかなご科.....	335
てんじくだい科.....	271	ぎんぼ亜目 Blenniina.....	335
まつだい科.....	273	へびぎんぼ科.....	335
ちびき科.....	274	あさひぎんぼ科.....	336
きんときだい科.....	274	いそぎんぼ科.....	336
かわびしゃ科.....	275	にしきぎんぼ科.....	342
ゆごい科.....	275	はだかおおかみうお科.....	348
むつ科.....	276	ほうずぎんぼ科.....	348

せんにながじ科.....	348	おにおこせ科.....	435
げんげ科.....	348	はおこせ科.....	437
あしなしげんげ科.....	351	ぎんだら科.....	439
あしろ亜目 Ophiidiina.....	352	あぶらぼうず科.....	439
いたちうお科.....	352	あいなめ科.....	439
あしろ科.....	355	うばごち科.....	441
かくれうお科.....	355	あかごち科.....	441
はぜ亜目 Gobiina.....	355	こち科.....	442
かわあなご科.....	355	はりごち科.....	444
はぜ科.....	359	かじか科.....	445
うみたなご亜目 Embiotocina.....	375	やぎしりかじか科.....	462
うみたなご科.....	375	とくびれ科.....	463
すずめだい亜目 Pomacentrina.....	376	ほうぼう科.....	468
すずめだい科.....	376	きほうぼう科.....	471
べら亜目 Labrina.....	380	せみほうぼう亜目 Dactylopterina.....	474
べら科.....	380	せみほうぼう科.....	474
ぶだい科.....	387	だんごうお亜目 Cyclopterina.....	475
ちょうちょううお亜目 Chaetodontina.....	389	だんごうお科.....	475
すだれだい科.....	389	くさうお科.....	477
つばめうお科.....	389	こばんざめ目 Echeneida.....	481
かごかきだい科.....	389	こばんざめ科.....	481
ひしだい科.....	390	うぼうお目 Godiesocida.....	483
ちょうちょううお科.....	390	うぼうお科.....	483
にざだい科.....	396	かれい目 Pleuronectida.....	484
あいご亜目 Siganina.....	398	ぼうずがれい亜目 Psettodina.....	484
あいご科.....	398	ぼうずがれい科.....	484
ふぐ目 Tetraodontida.....	401	かれい亜目 Pleuronectina.....	484
もんがらかわはぎ亜目 Balistina.....	401	こけびらめ科.....	484
べにかわむき科.....	401	ひらめ科.....	484
ぎま科.....	403	かれい科.....	490
もんがらかわはぎ科.....	403	うしのした亜目 Soleina.....	495
かわはぎ科.....	408	ささうしのした科.....	495
はこふぐ亜目 Ostraciontina.....	412	うしのした科.....	498
いとまきふぐ科.....	412	たら目 Gadida.....	500
はこふぐ科.....	412	たら亜目 Gadina.....	500
うちわふぐ科.....	413	ちごだら科.....	500
きたまくら科.....	414	たら科.....	502
ふぐ亜目 Tetraodontina.....	414	そこだら亜目 Coryphaenodina.....	503
まふぐ科.....	414	そこだら科.....	503
はりせんぼん科.....	421	うみてんぐ目 Pegasida.....	510
まんぼう亜目 Molina.....	421	うみてんぐ科.....	510
まんぼう科.....	421	あんこう目 Lophiida.....	511
かじか目 Cottida.....	422	あんこう亜目 Lophiina.....	511
かじか亜目 Cottina.....	422	あんこう科.....	511
かさご科.....	422	いざりうお科.....	511

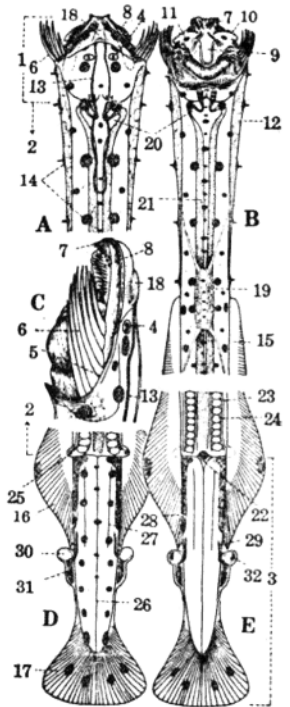
ふさあんこう科……………	514	かもめ目 Lari……………	560
あかぐつ科……………	514	とうぞくかもめ科……………	560
ちょうちんあんこう亜目 Ceratiina ……	516	かもめ科……………	561
みつくりえながちょうちん		しぎ目 Limicolae……………	567
あんこう科……………	516	つばめちどり科……………	567
おにあんこう科……………	517	みやこどり科……………	568
らくだあんこう科……………	517	ちどり科……………	568
<b>両生綱 AMPHIBIA</b> ……………	518	せいたかしぎ科……………	571
無尾目 Anura……………	520	たましぎ科……………	571
ひきがえる科……………	520	しぎ科……………	571
あまがえる科……………	520	ひれあししぎ科……………	582
ひめあまがえる科……………	520	<b>鳩目 Columbae</b> ……………	583
あかがえる科……………	521	はと科……………	583
あおがえる科……………	525	あび目 Pygopodes……………	585
有尾目 Urodela……………	526	あび科……………	585
さんしょうお科……………	526	かいつぶり目……………	585
おおさんしょうお科……………	530	かいつぶり科……………	585
いもり科……………	530	<b>管鼻目 Tubinares</b> ……………	587
<b>爬虫綱 REPTILIA</b> ……………	531	あほうどり科……………	587
かめ目 Chelonia……………	531	みずなぎどり科……………	587
うみがめ科……………	532	うみつばめ科……………	590
おさがめ科……………	533	<b>全蹠目 Steganopodes</b> ……………	592
かめ科……………	533	ねったいちょう科……………	592
すっぽん科……………	534	かつおどり科……………	592
とかげ目 Lacertilia……………	535	がらんちょう科……………	593
やもり科……………	536	ぐんかんどり科……………	593
きのぼりとかけ科……………	538	う    科……………	594
とかげ科……………	538	<b>雁鴨目 Anseres</b> ……………	595
かなへび科……………	540	がんかも科……………	595
めくらへび科……………	541	<b>鸛鷲目 Gressores</b> ……………	605
へび科……………	541	さぎ科……………	605
こぶら科……………	545	へらさぎ科……………	609
うみへび科……………	546	こうのとり科……………	610
くさりへび科……………	548	<b>鷲鷹目 Accipitres</b> ……………	611
<b>鳥綱 AVES</b> ……………	549	みさご科……………	611
鶉鷄目 Galli……………	551	はげわし科……………	611
きじ科……………	551	わしたか科……………	611
斑鷄目 Hemipodii……………	552	はやぶさ科……………	616
みふうざら科……………	552	<b>梟目 Striges</b> ……………	618
つる目 Alectorides……………	553	ふくろう科……………	618
くいな科……………	553	<b>杜鵑目 Cuculi</b> ……………	620
つる科……………	555	ほととぎす科……………	620
のがん科……………	556	<b>啄木鳥目 Pici</b> ……………	621
海雀目 Alcae……………	557	きつつき科……………	621
うみすずめ科……………	557	<b>仏法僧目 Coraciae</b> ……………	624

かわせみ科……………	624	おおこうもり科……………	670
ぶっぼうそう科……………	625	きくがしらこうもり科……………	670
やつがしら科……………	625	かくらこうもり科……………	671
はちくい科……………	625	ひなこうもり科……………	671
蚊母鳥目 Caprimulgi ……	626	すひきこうもり科……………	676
よたか科……………	626	霊長目 Primates ……	676
雨燕目 Cypseli ……	626	ざる科……………	676
あまつばめ科……………	626	うさぎ目 Lagomorpha……………	677
燕雀目 Passeres……………	626	なきうさぎ科……………	677
やいろちょう科……………	626	うさぎ科……………	677
つばめ科……………	627	齧歯目 Rodentia ……	678
かわがらす科……………	628	りす科……………	678
みそさざい科……………	628	やまね科……………	680
いわひばり科……………	628	ねずみ科……………	680
つくみ科……………	629	豪猪型亜目……………	685
うぐいす科……………	635	かぶうすみ科……………	685
ひたき科……………	639	食肉目 Carnivora……………	685
さんしょうくい科……………	641	くま科……………	685
ひよどり科……………	641	いぬ科……………	686
れんじゃく科……………	642	いたち科……………	687
もず科……………	642	じゃこうねこ科……………	689
ちめどり科……………	643	ねこ科……………	689
しじゅうから科……………	644	あしか科……………	689
ごじゅうから科……………	645	せいうち科……………	690
きばしり科……………	646	あざらし科……………	690
めじろ科……………	646	偶蹄目 Artiodactyla ……	691
せきれい科……………	646	いのしし科……………	691
ひばり科……………	649	しか科……………	692
あとり科……………	650	うし科……………	692
きんばら科……………	659	海牛目 Sirenia ……	692
こうらいうぐいす科……………	660	じゅごん科……………	692
むくどり科……………	660	鯨目 Cetacea……………	692
からす科……………	660	こくじら科……………	692
〔補遺〕		ながすくじら科……………	693
つる目つる科 かなだづる……………	663	せみくじら科……………	694
雁鴨目がなかも科 みかどがん……………	663	まっこうくじら科……………	694
めじろがも……………	663	あかぼうくじら科……………	695
しぎ目しぎ科 おおきあししぎ……………	663	いるか科……………	696
管鼻目みずなぎどり科		〔付 録〕	
おおしらはらみずなぎどり……………	663	動物の学名 江崎悌三・馬渡静夫……………	703
哺乳綱 MAMMALIA……………	664	中学校・高等学校の動物の	
食虫目 Insectivora ……	666	分類体制について 内田亨……………	717
とがりねずみ科……………	666		
もぐら科……………	669	INDEX ……	719
翼手目 Chiroptera ……	670		

# 毛顎動物 CHAETOGNATHA

## 毛顎動物概説

一般に矢虫と呼ばれる。体は右左相称で細長く、頸部横隔膜および尾部横隔膜によって頭・軀幹・尾節の3部に区分され、それぞれ体腔の1部を含む。1または2対の側鰭および尾鰭があり鰭には鰭条がある。体の表皮は各種に特有な場所において肥厚して泡状組織となり、種の特徴の一つをなしている。一般には頸部にいちじくしい。体表には繊毛の小束よりなる触毛斑がある。頭部の側背から後腹部にかけて、表皮の褶曲によって生じた頭被がある。頭は1対の軟骨状の側板および腹板によって支えられ、側板上にキチン質の前歯・後歯および顎毛が腹側に向かって列生している。前歯を欠くもの、全く歯を有しない種類もある。頭部背面には1対の眼があり、その直前に脳節がある。口は頭部腹面に開く。脳の直後から軀幹前背部に至る範囲に、楕円形・フラスコ状あるいは非常に細長い環状の繊毛環がある、その機能は不詳であるが、触覚・嗅覚～味覚あるいは排泄機能を営むものと称せられている。軀幹の前半部腹面に著大な腹神経節があり、鰭や泡状組織・繊毛環などの位置を示す重要な標識となっている。消化器官は短い咽頭と軀幹中を一直線に走る単純な腸管とよりなり、両者の境界において、腸管前端部が左右に盲囊状の浅い腸分岐をなすものがある。肛門は軀幹の後端腹面に開く。雌雄同体。卵巣は軀幹後部に腸をはさんで1対、精巣は尾節前側部に1対あり。雌性生殖腺は軀幹後側端背面にある小突起上に開き、開口部より入った場所は受精囊をなしている。精子は尾節体腔中を流動している中に成熟して、短い輸精管を経て、後鰭と尾鰭の中間体側に突出した貯精囊に入り貯えられる。貯精囊は破裂して、粘液を混じて一塊となった精子塊を放出し、精子塊は他個体に付着して雌性生殖器に入る。発生は直達的。すべて海産。インヤムン類は海底を匍匐または遊泳し、他はすべて浮遊生活を営む。出現の量・頻度ともに大きいので、プランクトン中の重要な一員をなし、とくにその分布が特定の水域に限られているものは、重要な水塊指標種として重用されている。採集した矢虫類は5%ホルマリン液中に保存するのがよい。頭部の歯は、それを含む部分をグリセリン・カーボワックス・ラクトフェノールなどで透明にして観察する。繊毛環は完全な標本を明礬カーミンまたはメチレン青で染め、白色の背景を用いて観察する。〔時岡〕



矢虫の体制模式図

A 前部背面, B 前部腹面, C 頭部左側面, D 尾節背面, E 尾節腹面

- 1 頭部 Head. 2 軀幹 Trunk. 3 尾節 Tail segment. 4 眼 Eye. 5 頭被端 Hood edge. 6 頭毛 Hook. 7 前歯 Anterior teeth. 8 後歯 Posterior teeth. 9 口 Mouth. 10 前庭器官 Vestibular organ. 11 前庭溝 Vestibular groove. 12 泡状組織 Collarette. 13 繊毛環 Corona ciliata. 14 触毛斑 Sensory spot. 15 前鰭 Anterior fin. 16 後鰭 Posterior fin. 17 尾鰭 Tail fin. 18 脳節 Brain. 19 腹神経節 Ventral ganglion. 20 腸分岐 Intestinal diverticula. 21 腸管 Intestine. 22 肛門 Anus. 23 受精管 Seminal receptacle. 24 卵巣 Ovary. 25 受精囊開口 Opening of seminal receptacle. 26 主縦隔膜 Main septum. 27 副縦隔膜 Accessory septum. 28 精巣 Testis. 29 輸精管 Vas deferens. 30 貯精囊腺状部 Glandular portion of seminal vesicle. 31 貯精囊貯精室 Sperm chamber of seminal vesicle. 32 貯精囊破裂孔 Ruptured opening of seminal vesicle.

〔無膜目 やむし科〕



1. おおやむし

*Sagitta hexaptera* D'ORBIGNY

成体は60mmに達するものがある。筋肉層薄く体は透明で軟かい。側帯は広い。成体では尾節は体長の16~25%。頸部は明瞭で泡状組織はない。尾部横隔膜部のくびれはいちじるしくない。前鱗は短かく、腹神経節よりはるかに離れ、

基部には無鱗条帯がある。後鱗は前鱗より長く三角状、前鱗からほぼその長さだけ離れる。尾節よりも軀幹に長く沿い、最大幅は尾部横隔膜の少し後にある。基部および前端付近には鱗条がない。纖毛環は眼の前から頸部に至りほぼ長楕円形を呈する。腸分枝はない。顎毛は4~10、前歯は長く0~5、後歯は0~6。いずれも成熟したものでは減少する。成熟した卵巣は頸部に達する。貯精嚢は後鱗と尾節の中央より少しく後方にあり、細長く、中央部に浅いくびれを有し、精子が充満するとその後半部が破れる。各大洋の温水域からやや寒冷な水域にわたって表層から中層に広く分布する。成熟体は中層に多い。普通であるが出現個体数は多くない。〔時間〕

〔無膜目 やむし科〕



2. ことがたやむし

*Sagitta lyra* KROHN

体質は前種に似て軟かい。成体は70mmに達する大型種で、成体の尾節は体長の10~20%。頸部・尾部横隔膜部のくびれはともに明瞭。泡状組織はない。前鱗は非常に長く、腹神経節の直後またはわずか後方に始まり、基部および前部

には鱗条がない。後鱗はほぼ三角形、前鱗より短かく、約1/4は軀幹に沿う。最大幅は尾部横隔膜の前にある。基部には無鱗条帯がある。前後鱗は全く相離れるか (gazellae 一型) または鱗条のない細い帯で結ばれる (lyra 一型)。纖毛環は軀の直後から頸部に至る長楕円形。腸分枝なし。肛門は尾部横隔膜よりわずか前方に開く。顎毛2~10、前歯0~10、後歯0~13。成熟とともに欠損・脱落の傾向を示す。卵巣は長く、腹神経節に達する。貯精嚢は小さい楕球状で、尾節より離れ後鱗に接近している。各大洋に広く産し、成熟体は温暖な水域では中層に多い。生殖腺は一代に2回成熟すると想像されている。〔時間〕

〔無膜目 やむし科〕



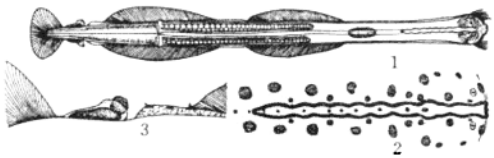
3. ふくらやむし

*Sagitta enflata* GRASSI

30mmまでの中型種。成体において尾節は体長のほぼ20%。体質は前記2種に似て軟かい。頸部および尾部横隔膜部のくびれは明瞭。泡状組織なし。前鱗は腹神経節より広く離れて後方に始まり、基部には細い無鱗条帯がある。後鱗は

前鱗と等長あるいはやや長く、自長の1/2~1/3だけ前鱗から離れ、ほぼ三角状。約60%は軀幹に沿う。最大幅は尾部横隔膜付近。基部および前部には鱗条がない。纖毛環は楕円形ないしは砂時計状。眼の前方より頸部に至る。腸分枝はない。顎毛7~10、前歯は6~10、後歯は10~18。卵巣は後鱗前端を越えることなし。球状の貯精嚢は後鱗より離れて尾節の前基部に接する。各大洋の温暖な水域に最も普通な種類で、表層に多産する。S. gardineri Doncaster では卵巣は長く、前鱗後端に達する。〔時間〕

〔無膜目 やむし科〕



4. やむし

*Sagitta bipunctata* QUOY et GAIMARD

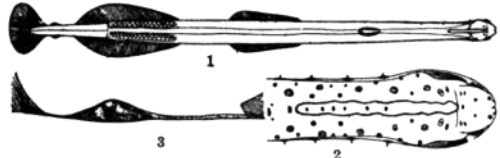
成体は15mmまで。尾節は体長の21~30%。筋肉発達し、側帯も狭いので、体は硬くて不透明。頸部および尾部横隔膜部にいちじるしくくびれがない。頸部にはかなり厚い泡状組織があり、次第に厚さを減じながらほぼ纖毛環後端に

至る。完全な標本では貯精嚢の前方にやや厚い泡状組織がある。前鱗は腹神経節直後に始まり、後鱗は前鱗よりもやや長く、軀幹と尾節とにほぼ等分され、尾部横隔膜の後方に最大幅を有する。両鱗ともに無鱗条帯を欠く。纖毛環は長く、頭長の2倍以上、軀の直後に始まり、波状を呈している。腸分枝なし。顎毛は8~9、前歯は5~8、後歯は10~16。卵巣は長い場合には、前鱗中央をわずかに越える。貯精嚢は後鱗より離れて尾節の前基部にあり、腺細胞よりなる前部が後部から明瞭に区別されている。各大洋の温水域表層にすむ。1 全虫背面、2 纖毛環、3 貯精嚢。〔時間〕

5. きたやむし

*Sagitta elegans* VERRILL

成熟体は40mmに達す。体は細く、筋肉はよく発達し、尾節は体長の19~24%を占める。泡状組織はほぼ繊毛環と同範囲まで分布しているがいちじるしくはない。繊毛環は脳の直後に始まり、頭長の $\frac{1}{2}$ ~2倍あり、波状を呈す。前鱗は短かく、腹神経節よりほぼ鱗の長さだけ後方に始まる。後鱗は前鱗よりその約 $\frac{1}{4}$ の距離を距てた後方に始まる。尾節よりも軀幹に長く沿い、尾部横隔膜直後に最大幅を有する。両鱗ともに無鱗条帯を欠く。腸分枝あり。顎毛8~13, 前歯5~10, 後歯12~19。卵巣は後鱗前端を越えることなし。貯精嚢は尾鱗基部にあり。北水洋に広く分布し、わが近海では親潮およびリマン海流中にきわめて普通である。1全虫背面, 2体の前部背面, 3貯精嚢。〔時間〕

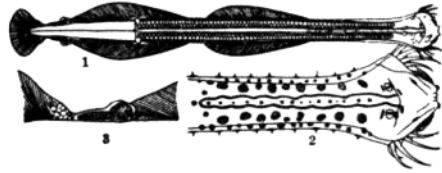


〔無眼目 やむし科〕

6. かたやむし

*Sagitta ferox* DONCASTER

成体は14mmまで、尾節は体長の27~32%を占める。筋肉は発達。頭部は大きく、泡状組織はほぼ繊毛環と同範囲にまで達し、とくに頭部でいちじるしい。体の後部において貯精嚢の前方付近に、再びわずかな肥厚部を形成する。前鱗は腹神経節の後半部より始まる。後鱗は軀幹よりも尾節に長く沿い、尾部横隔膜後方に最大幅を有す。眼の色素は大。繊毛環は脳の直後に始まり、頭長の約2倍半、わずかに波状を呈す。腸分枝は明瞭。顎毛7~8, 前歯6~8, 後歯11~15。成熟した卵巣は頭部に達す。貯精嚢は後尾両鱗に接し、腺細胞よりなる球形の前半部と細長い貯精室とに分かれる。各大洋の温水域表層にすむ。近似種 *S. robusta* Doncaster は本種に酷似しているが、頭部は著大、顎毛は成体で5~6, 前歯は7~10。貯精嚢の前部は *ferox* におけるほどには大きくない。1全虫背面, 2体の前部背面, 3貯精嚢。〔時間〕

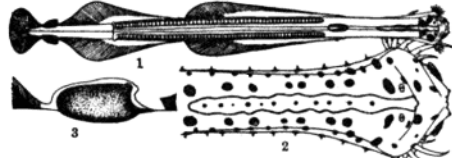


〔無眼目 やむし科〕

7. ベドートやむし

*Sagitta bedoti* BÉRANECK

温水域においては15mmまでで成熟するが、ややつめたい水域では体長30mmに達する。尾節は体長の21~27%。筋肉の発達は中位。頭部にはいちじるしい泡状組織があり、その後端は繊毛環の $\frac{1}{2}$ まで達する。前鱗は後鱗より長く、腹神経節前部~後部より始まり、その前部および前半基部には鱗条がない。後鱗は軀幹と尾節とにほぼ等分され、尾部横隔膜後方で最も幅が広い。その前部および前半基部には鱗条がない。前・後鱗の距離はきわめて小さい。繊毛環は脳直後に始まり、頭長の2~3倍、わずかに波状を呈す。腸分枝なし。顎毛6~7, 前歯8~13, 後歯16~25 (多いときは30に達す)。卵巣は腹神経節を越えることなく、貯精嚢は後尾両鱗に接してほぼ卵形を呈す。インド洋・西部太平洋の沿岸水域および東部太平洋熱帯沿岸水域に普通に産す。1全虫背面, 2体の前部背面, 3貯精嚢。〔時間〕

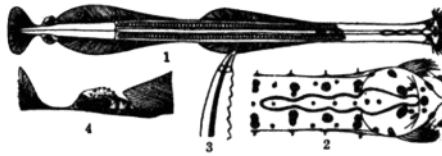


〔無眼目 やむし科〕

8. のこぎりやむし

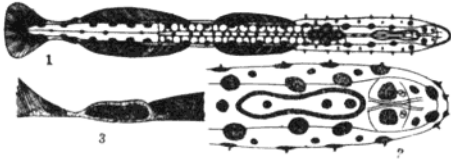
*Sagitta pacifica* TOKIOKA

成体は15mmまで、尾節は体長の22~28%。筋肉はよく発達する。頭部に不顕著な泡状組織を有するものがある。前鱗は腹神経節の直後に始まり、その前部付近は鱗条を欠くことがある。後鱗は軀幹と尾節とにほぼ等分され、尾部横隔膜の後方に最大幅がある。その前部近くは鱗条を欠くことがある。眼色素はきわめて小。繊毛環は脳直後に始まり、頭長の2倍以上に達す。腸分枝なし。顎毛はその腹側刃部に鋸歯状突起を有する。数は5~7, 前歯は7~13, 後歯18~25。成熟した卵巣は腹神経節を越える。貯精嚢は後鱗直後にあり、ほぼ卵形、前腹側部には5~10個の歯状突起を有す。輸精管にいちじるしい膨大部がある。各大洋、特にインド太平洋の暖流水域に普通である。太平洋には他に3近似種を産す。1全虫背面, 2体の前部背面, 3顎毛端部, 4貯精嚢。〔時間〕



〔無眼目 やむし科〕

〔無膜目 やむし科〕



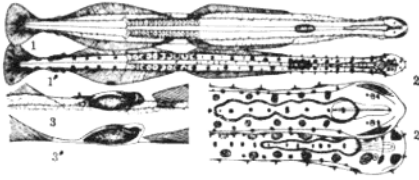
9. ふとえりやむし

*Sagitta regularis* AIDA

7mm までの小型種で、尾節は体長の 30~37% を占める。体は細く、筋内の発達中は位。非常にいちじるしい泡状組織がある。頸部の後方で最も厚く、そのまま厚さを減らさず減らすことなく前鱗に達し、ここから急に厚さを減

じて後方貯精嚢に至る。前鱗は腹神経節の直後もしくはやや後方に始まる。後鱗は前鱗より長く、その $\frac{1}{2}$ は尾節に沿い、最大幅は尾部横隔膜の後方にある。両鱗ともに無鱗条帯を欠く。繊毛環は頸部に始まり、頭長の約 $\frac{1}{2}$ 、側部に 1~3 彎入がある。腸分枝はいちじるしい。顎毛 7~9、前歯 3~4、後歯 3~6。卵巣は腹神経節を越え出ることがある。貯精嚢は後鱗に接し、長楕円形を呈す。インド太平洋の温水域に広く分布する。*S. neglecta* Aida は本種の近似種。わずかに大きく、泡状組織は本種ほどいちじるしくない。1 全虫背面、2 体の前部背面、3 貯精嚢。〔時間〕

〔無膜目 やむし科〕



10. まんとやむし

*Sagitta crassa* TOKIOKA

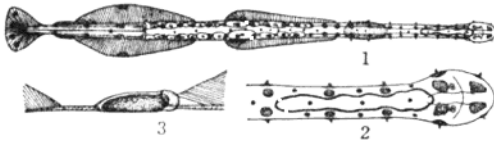
ないかいやむし

*S. c. forma naikaiensis* TOKIOKA

体長・泡状組織の形にいちじるしい変異がある。f. *typica* は 20mm に達するものがあり、尾節は体長の 27~30%。泡状組織は非常にいちじるしく、頸の後方で減少するが再び増大して前鱗に達す。以後徐々に減少して貯精嚢に

至る。前鱗は腹神経節の少し後方に始まり、後鱗は尾節に長く沿う。両鱗ともに無鱗条帯を欠く。繊毛環は眼の後方に始まり、細長く、数箇の湾入を有す。腸分枝はあるがいちじるしくない。顎毛 8~11、前歯 7~14、後歯 20~35。卵巣は前鱗の中央迄。貯精嚢は後鱗に接着する。f. *naikaiensis* は 7~10mm、尾節は体長の 27~33%。泡状組織は頸部にのみ見られる。顎毛 7~9、前歯 6~8、後歯 14~20。両型は中間型により連らなる。朝鮮沿岸・黄海・東京湾・伊勢湾・青森湾・瀬戸内海その他の諸湾に普通。*typica* は低温、*naikaiensis* は高温型。1 全虫背面、2 体の前部背面、3 貯精嚢 (*typica*)。1'~3' (*naikaiensis*)。〔時間〕

〔無膜目 やむし科〕



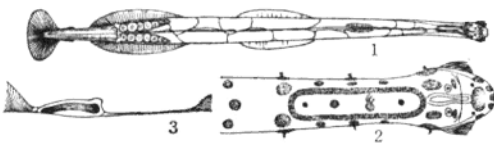
11. みじんやむし

*Sagitta delicata* TOKIOKA

7mm までの小型種で、尾節は体長の 26~30%。体は細く、側帯はやや狭い。しかし筋肉層が薄いので、体は透明でむしる軟らかい。頭部小、頸部および尾部横隔膜部にいちじるしいくびれはない。泡状組織なし。腹神経節は比較

的に大きく、その両側は体側よりわずかに突出している。前鱗は腹神経節のわずか後方に始まり、無鱗条帯はないが、前半部では鱗条は粗、かつ軀幹に垂直に走る。後鱗は前鱗より少し長く、60% 以上は尾節に沿う。最大幅は尾部横隔膜の後方にある。全体に鱗条あり、前部のものは基線に垂直に走る。両鱗の間隔はやや大。繊毛環は頸部に始まり、頭長の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{3}$ 。腸分枝明瞭。顎毛 7、前歯 4~5、後歯 8~14。卵巣は腹神経節に達し、卵には大小がある。貯精嚢は長楕円形、尾節より離れて後鱗に接す。黒潮流域の内湾に多産する。1 全虫背面、2 体の前部背面、3 貯精嚢。〔時間〕

〔無膜目 やむし科〕



12. ひめやむし

*Sagitta minima* GRASSI

9mm までの小型種。尾節は短かく、体長の 16~24%。筋肉層薄く体は透明で軟らかい。頸部はいちじるしくないが、尾部横隔膜部のくびれは明瞭。泡状組織はない。前鱗は腹神経節より鱗長の $\frac{1}{2}$ ~1 倍だけ離れ、鱗条はきわめて粗。後

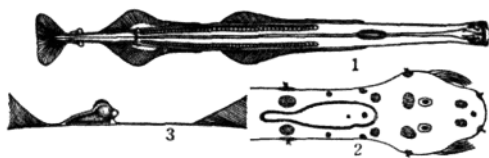
鱗は前鱗よりも長く、その $\frac{1}{2}$ は軀幹に沿い、最大幅は尾部横隔膜の前にある。鱗条は体側に垂直に走る。繊毛環は頸部に始まり、頭長の 1 倍半、長楕円形を呈す。腸分枝あり。腸壁は体腔一ぱいにふくれ、壁の組織が細く残って、体が多くの隔壁で区切られているように見える。顎毛 7~8、前歯 3~5、後歯 9~14。卵巣は後鱗前部に達せず。貯精嚢は後鱗より離れて尾節の前基部にあり、長楕円形を呈す。各大洋の表~中層に普通であるが、多産地の分布は未詳。1 全虫背面、2 体の前部背面、3 貯精嚢。〔時間〕



13. ながめやむし

*Sagitta decipiens* FOWLER

体は細く20mmに達す。尾節は体長の20~30%。筋肉層は厚からず、体はやや透明で軟らかい。頸部および尾部横隔膜部のくびれは不明瞭。頸の付近に薄い泡状組織が見られることがある。前鰭は長く、腹神経節の中央以後に始まり、その前半部はとくに細く鰭条は粗または全く見られない。後鰭は前鰭より短かくほぼ三角形、尾節よりも鰭幹に長く沿い、尾部横隔膜の付近に最大幅がある。その前部は細く、ここに鰭条を欠くことがある。隔膜の前方基部に細い無鰭条帯がある。眼色素は非常に細長く、色色が淡くその中に濃い部分がト状に見られる。鰓毛環は頸部に始まり、頭長の約1倍半。腸分枝あり。顎毛は5~7、前歯6~11、後歯15~23、いずれも繊細。成熟した卵巣は前鰭のほぼ中央に達す。貯精嚢は後鰭より離れて尾鰭前基部にあり、前部はふくれた腺状部をなす。各大洋の温水域中層に見られる。1全虫背面、2体前部背面、3貯精嚢。〔時間〕

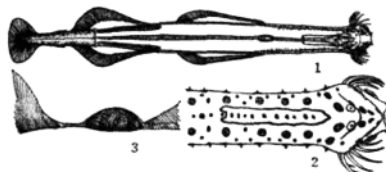


〔無眼目 やむし科〕

14. プランクトンやむし

*Sagitta planctonis* STEINHAUS

30~40mmに達する大型種。尾節は体長の21~28%。側帯狭く筋肉が発達しており、体は不透明で硬い。頸部は明瞭。尾部横隔膜部にくびれなし。泡状組織は若個体では頸部に限られるが、成体では前鰭に至る。前鰭は腹神経節の直後に始まり、前部および基部に無鰭条帯がある。これは若個体では不明瞭。後鰭は前鰭より短かく、尾節よりも鰭幹に長く沿い、最大幅は尾部横隔膜のわずかに前方にある。前半基部は鰭条を欠く。眼色素小。鰓毛環は頸部に始まり、頭長の1/4~2倍。前部は尖り後端は横に切れてその中央部は前方に凹む。腸分枝あり。顎毛6~10、前歯3~12、後歯7~20。いずれも老成体では欠損・脱落する。成熟卵巣は頸部に達す。貯精嚢はほぼ楕円形、尾節より離れ後鰭に接す。各大洋の温水域表層に棲むが、成体は750~1000mに見られる。1全虫背面、2体前部背面、3貯精嚢。〔時間〕

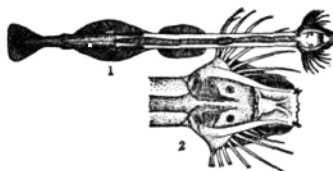


〔無眼目 やむし科〕

15. めくらやむし

*Sagitta macrocephala* FOWLER

成体は20mm。尾節は長く、体長の30~40%。筋肉は発達、側帯は狭く体は不透明で硬い。頸部は非常に大きく、頸部は明瞭。尾部横隔膜部にくびれがない。泡状組織なし。前鰭は短かく腹神経節より少し後方に始まる。後鰭は前鰭より長く、鰭幹よりも尾節にわずかに長く沿い、尾部横隔膜の後に最大幅を有す。両鰭ともに前部には鰭条を欠く。尾鰭はやや高い三角状。眼は色素を欠き、不完全。鰓毛環の形態は未知。腸分枝なし。腸は食餌とした深海水性腕脚類等の色素のため黄橙~橙朱色を呈する。顎毛は10~12、前歯5~10、後歯15~38。いずれも褐色で強大。成熟した卵巣の正確な長さ、貯精嚢の形態は未だ知られていない。各大洋の温水域深層にすむ。1全虫背面、2頭部背面。〔時間〕

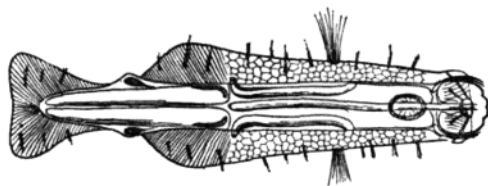


〔無眼目 やむし科〕

16. へらがたやむし

*Pterosagitta draco* KROHN

1属1種。成体は11mmまで。尾節は体長の40~48%。体は幅広く、筋肉発達し、側帯は狭い。したがって体は不透明で硬い。泡状組織が頸から側鰭後端に至るまで非常にいちじるしいので、頸部は不顕著。尾部横隔膜部にくびれなし。鰭幹のほぼ中央各側に触手束がある。側鰭は1対、尾部横隔膜部に始まる。無鰭条帯はない。鰓毛環は頸部に始まり、頭長の約1倍半、楕円形。腸分枝は明瞭でない。顎毛8~11、前歯6~10、後歯9~18。顎毛の刃板下半部、前後歯が鋸歯状突起を有することがある。成熟した卵巣は頸部に達す。貯精嚢は後鰭に接着する。各大洋の温水域表層に普通に産す。側鰭の位置と泡状組織の構造により、他種と紛れることはない。〔時間〕



〔無眼目 へらがたやむし科〕